

# 施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

## 1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 地域福祉活動の推進	② 施策番号	4502
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	3 みんなで支えあう福祉のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 地域福祉の推進		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
健康福祉部	長寿社会推進課		

## 2. 施策の現状把握

### [1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	全市民が対象であるが、特に65歳以上の高齢者
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	地域に存在する「自助(自らの考えに基づいて)・互助(ご近所で声を掛け合い、共に行動することにより、地域コミュニティを形成し)・共助(介護予防(要介護認定の軽減を)・「公助(老人集会場等で図る)」の有機的な連携により、地域包括ケアシステムの構築を図る。 地域包括ケア＝認知症ケア⇒地域福祉力の創生
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	・ファミリー・マネジメントにより、老人集会場等の公共施設の最適化が推進される。 ・目前に迫っている超高齢社会の到来に向け、国においては、積極的に「地域包括ケアシステムの構築」の推進が図られている。 ・認知症施策推進事業については、平成27年4月の介護保険法の改正により、地域支援事業の包括的支援事業に盛り込まれたところである。

### [2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)		単位	指標とした理由・考え方	
①	泉南市立老人集会場修繕施設数	施設数	地域コミュニティを形成するためには、「小さな拠点」が必要であり、FMの計画に沿って、安心・安全な施設とするため。	
	計算式			
②	タウンミーティング参加者数	人		
	計算式		地域住民等に対して、認知症の理解を深めていただくために、各地域で認知症タウンミーティングを開催するため。	
③				
	計算式			

	指標名	単位						備考	
			H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標		
①	泉南市立老人集会場修繕施設数	施設数	目標値	27	27	27	27	27	
			実績値	15	14	27	—	—	
			達成率	55.6%	51.9%	100.0%			
②	タウンミーティング参加者数	人	目標値	500	500	500	500	500	
			実績値	165	196	214	—	—	
			達成率	33.0%	39.2%	42.8%			
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

### [3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方針
1	社会福祉協議会補助事業	生活支援員活動件数	人	5,871	5,633	5,100	35,805	37,871	40,966	B	イ c	▲
2	総合福祉センター指定管理事業	利用人数	人	55,450	51,333	60,000	83,213	83,354	79,099	B	ア	
3	総合福祉センター維持管理事業	修繕箇所	人	1	1	1	4,295	3,604	2,839	B	ア	
4	老人集会場維持管理事業	修繕施設数	件	15	14	27	35,889	23,642	26,425	B	イ b	◎
5	その他の集会所維持管理事業	集会所数	箇所	22	22	22	919	19,240	1,051	B	イ b	
6	認知症地域支援・ケア向上事業	タウンミーティング参加者数	人	195	214	200	8,089	10,104	10,543	A	ア	○
7	生活支援・介護予防サービス体制の基盤整備事業	ライフサポートコーディネーター数	人	60	60	70	18,739	18,771	18,960	A	ア	
8	認知症サポーター養成事業	サポーター数	人	1,391	1,412	1,000	4,509	2,738	2,748	A	ア	
計	8						191,458	199,324	182,631			

### 3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	超高齢社会に対応し得る「地域包括ケアシステム」のポイントは、地域に存在する「自助・互助・共助・公助」の有機的な連携の構築が重要であることから、官民協働による地域づくりが可能になる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	「地域包括ケアシステム」を構築していくためには、「小さな拠点」が必要となるため、安心安全に利用できる施設が必要であり、更に、「地域包括ケアシステム」への地域住民の理解が必要であるため、地域住民への周知、理解が読み取れる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	「地域包括ケアシステム」を構築していくためには、各地域に「小さな拠点」が必要と考えるが、FMの計画とも密接な関係があり、地域住民や区・自治会、また、市の役割を明確にしていく必要がある。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	適正と考える。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	◎の老人集会場維持管理事業については、地域コミュニティの拠点として地域住民が安心安全に利用できるように、また災害時の指定避難所の役割等もあるため。 ○の認知症地域支援・ケア向上事業については、地域包括ケアシステムを構築していくための欠かせない事業であるため。 ▲の社会福祉協議会補助事業については、社会福祉協議会の補助金に頼らない自立した運営を目指していく必要がある。

### 4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	C	老人集会場維持管理事業については、地域コミュニティの拠点として必要であるもののFMの計画との整合性を図る必要がある。 認知症地域支援・ケア向上事業については、地域包括ケアシステムを構築していくための欠かせない事業であり、全国でも先進地として注目されているが、地域住民等への啓発や周知を更に強化していく必要がある。 社会福祉協議会補助事業については、社協の補助金に頼らない自立した運営を目指していく必要があるものの、社協の独自事業の確立に課題がある。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

### 5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	・社会福祉協議会補助事業については、社協の補助金に頼らない自立した運営を目指していく必要があるため、社協との運営会議等を確立する。 ・老人集会場維持管理事業については、地域コミュニティの拠点として必要があるため、あらゆる可能性を模索する。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	・老人集会場維持管理事業については、地域コミュニティの拠点として必要があるため、あらゆる可能性を模索する。 ・社協自らが「泉南市社会福祉協議会活性化検討委員会」を設置し、社協自体の活性化に向け事業の開拓・確立ができるよう支援を行う。
中長期的対応 (3~5年をめどに取り組む改善案)	・老人集会場維持管理事業については、地域コミュニティの拠点として必要があるため、あらゆる可能性を模索する。 ・社協独自の事業の開拓・確立を目指し、経過措置を設け、社協が補助金に頼らない真に自立した運営ができるようにする。

### 6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	C	超高齢社会に対応しうる地域づくりは喫緊の課題であり、構成する事務事業が施策達成に向けて適切に展開されるよう、取組を継続して進められたい。 また、施設の老朽化対策については、適切な維持管理を継続しつつ、今後の配置や活用について幅広い検討を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある